TOKIWA

常磐大学同窓会会報

ときわの風

2015.3.27 vol.20

■ 発行：常磐大学同窓会
■ 編集：常磐大学同窓会事務局
水戸市見和1丁目430－1（常磐大学内）
電話029-232-2511（代）

WIND OF TOKIWA

E-mail dosokai@tokiwa.ac.jp URL http://www.tokiwa.ac.jp/~dosokai/

TSS発足初年度の活動事例

前号において紹介しましたTSS活動の具体的な事例について紹介します。TSSとして活動しているグループの学生からそれぞれの現在の取り組みと今後の展望について伺いました。

※『TSS（Tokiwa Student Staff の略称）』とは、「学生が学生の視点で主体的に参画する活動（＝TSS活動）」に積極的に参画する学生を指しています。学生の「いろいろな経験を通じて、さらに充実した学生生活を送りたい。」という想いと、教職員の「大学生ならではのアイディアや意見を大学運営に積極的に取り入れながら、大学がより良い学びや活動の場となるように、学生と一緒に大学を盛り上げていきたい。」という想いをつなげた『TSS活動』を実現するために、新たな取り組みとして常磐大学に誕生したのが『TSSシステム』です。

TSS研修チーム

「TSS支援チーム」は、TSSをサポートするために総務、広報、研修の3つの担当に分かれて活動しています。私たちは「TSS支援チーム」に所属し、研修を担当しています。研修担当は、学生と教職員がより活発な大学生活を送れるよう、学内外に向けて研修イベントを企画・運営しています。

TSS発足初年度の今年、研修担当では、TOKIWAのことを知り、よりTOKIWAに愛着をもってもらう「TOKIWA研修」、自分を知り、人と関わる楽しさを知ってもらう「コミュニケーション研修」、社会のマナーを学ぶ「マナー研修」という研修を行ってきました。どれも完璧とはいきませんでしたが、初めての試みの研修もあるなか、今後に繋がる研修ができたと思っています。

これからは、今年度実施した研修をさらに改良していく他、研修をデザインする知識と技術を習得する「デザイン研修」や、TSS組織内のメンバーで相互理解を深め、組織活動を活発にするための「チームビルディング研修」など新しい研修の準備を進めています。また、TSSが発足してから1年が過ぎたので、新しい研修の企画だけではなく、後輩への引き継ぎなどTSSがこの先さらに活発に活動するための体制整備も行っています。

TSSは、まだまだ規模も小さく、知名度も低い組織ですが、むしろその分伸びしろがあるということだと思うので、これからもTSS支援チーム研修担当共々、さらに精力的に活動してTSSをバックアップしていこうと思っています。

研修会実施に向けた打合せの様子

第１回TSS研修
「TOKIWA研修」の様子

図書館サポーター

私たち図書館サポーターは、1年生から4年生までのTSSメンバー10名で、2014年5月より活動しています。私たちの活動の目的は、図書館の貸出率を向上させること、そして利用者を増やすことです。初年度の主な活動は、発行物「図書館だより」「パンセ（図書館報）」の作成とイベント「ブックトーク」の開催となりました。活動にあたり、企画立案から提案、実行、反省まで全員で協力しあい、自分たちの手で行動に移すことを心掛けました。常磐大学には約34万冊の蔵書があり、図書館へ行けば自由に本を読むことができる環境があります。その環境を活かし、図書館をより身近な場所として感じてもらえるような活動をしていきたいと考えています。

今後の活動としては、初年度行った活動を継続しながら、展示本の常設化、その他新規企画を検討しています。来年度も新入生のメンバーを迎え、楽しく図書館サポーターらしい活動を続けていきたいです。

◀「ブックトーク」において発表する図書館サポーター

TSS研修シーム
として活動している
人間科学部
コミュニケーション学科　3年
若林　正智さん

TSS図書館サポーター
として活動している
人間科学部
現代社会学科 4年
清水　江子さん

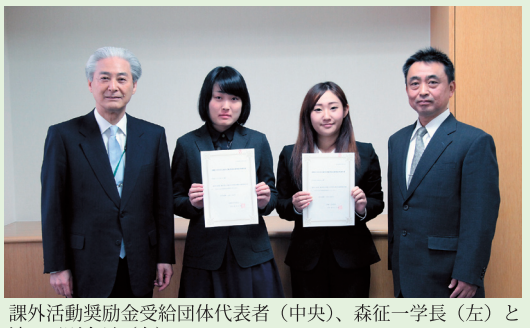
2014年度 常磐大学同窓会 課外活動奨励金給付者決定

同窓会では、2011年度に常磐大学同窓会課外活動奨励金制度を創設しました。この制度は、常磐大学の発展および社会貢献に寄与できるまたはそれが期待できる学生の課外活動に対して、奨励金を給付し、同窓会活動に対する認知度や理解度の向上を目的としています。

2014年度は下記の2団体に対し、奨励金（学生プロジェクト奨励金）を給付することが決定しました。

12月12日には、奨励金授与式が行われ、池田正則会2014年度　常磐大学同窓会課外活動奨励金給付者決定長から学生に奨励金が手渡されました。

学生たちの活動内容および成果については、2015年度の同窓会総会時に報告会を開催します。


課外活動奨励金受給団体代表者（中央）、森征一学長（左）と池田正則会長（右）

団体名	活動成果の内容	給付金額
M 4（エムフォー）	2014年8月にひたちなか市那珂湊地区で開催された「みなとメディアミュージアム」において企画立案や参加アーティストの制作サポートや来場者対応や運営等サポート活動の実施	200,000円
TEAM MASA	視覚障害者がさわって鑑賞できる「触覚型展示資料」による「さわって観る富嶽三十六景展」を全国で開催予定。2014年8月には「汐留博覧会2014」への参加。他に山梨県・福岡県で開催予定	200,000円

TSSボランティア

TSSボランティアとは、TSS活動の1つです。この活動は、正式名称がまだ決まっていないほど、始まったばかりの活動です。今年度は東日本大震災で被災した岩手県と福島県いわき市で復興支援プロジェクトを行いました。岩手県では、常磐大学と岩手県との連携事業である「岩手&常磐（いわとき）」に参加して、ときわ祭で震災の写真展と岩手県物産店を実施しました。福島県いわき市では、いわき市内の幼稚園を訪問して子ども達と遊ぶ「子ども元気プロジェクト」を行いました。

来年度以降も、この2つの活動に継続して参加して、企画の段階から取り組もうと思っています。また、他のNPOや団体が行うボランティア活動情報についても、積極的にボランティア内で紹介し共有することで、メンバー個人の活動の選択肢も増やして行こうと考えています。TSSボランティアのメンバーも増えてきているため、今後は活動の幅と深さをより広げていけると思っています。今後のTSSボランティアのさらなる躍進にご期待ください。

TSSボランティアと
として活動している
人間科学部
心理学科 3年
吉沢　望美さん

2014年度 体育会戦績報告（秋季）

硬式野球部

顧問：千葉敦
監督：石川清一
部員数：42人
秋季戦績

関甲新学生野球秋季リーグ
○予選リーグ　3勝3敗
常磐大学○11－8×宇都宮大学
常磐大学×0－4○作新学院大学
常磐大学○8－0×茨城大学
常磐大学○12－10×埼玉大学
常磐大学×2－6○平成国際大学
常磐大学×0－8○白鴎大学
○6代表決定戦　2勝0敗
　決勝リーグ進出
常磐大学○3－2×作新学院大学
常磐大学○8－0×新潟医療福祉大学
○決勝リーグ　1勝5敗　5位
常磐大学×4－5○山梨学院大学
常磐大学×0－8○平成国際大学
常磐大学○6－3×関東学園大学
常磐大学×3－8○白鴎大学
常磐大学×0－9○上武大学

剣道部

顧問：小澤聡
部員数：4人
（女子のみ）
秋季戦績

第46回関東女子学生剣道選手権大会
1回戦
青木（常磐大学）×－○佐々木（筑波大）
1回戦
村田（常磐大学）×－○千波（立教大）
2回戦
住谷（常磐大学）○－×笹島（青学大）
3回戦
住谷（常磐大学）×－○内田（東洋大）

第69回国民体育大会茨城県大会
1回戦
青木（常磐大学）×－○宮本（流経大）
1回戦
村田（常磐大学）×－○高梨（土浦）
1回戦
住谷（常磐大学）×－○比佐（茨城大）

第40回関東女子学生剣道優勝大会
1回戦
常磐大学1－2東京女子大学

第15回関東女子学生剣道新人戦大会
1回戦
常磐大学0－2東洋大学

第9回全日本学生剣道オープン大会
予選リーグ
青木（常磐大学）○－×堀川（上智大）（二本勝ち）
青木（常磐大学）×－○田中（東海学大）（二本負け）
村田（常磐大学）○－×片野（神外大）（一本勝ち）
村田（常磐大学）×－○谷貝（白鴎大）（一本負け）
住谷（常磐大学）×－○横川（高知大）（一本負け）
高田（常磐大学）△－△伊藤（東海学園大）（引き分け）
高田（常磐大学）×－○先山（福井大）（二本負け）

サッカー部

顧問：依田　泉
部員数：22人
秋季戦績

北関東大学サッカーリーグ戦
後期　戦績
常磐大学×1－4○関東学園大学
常磐大学×1－2○足利工業大学
常磐大学×0－7○上武大学
常磐大学×1－3○作新学院大学
常磐大学×1－3○高崎経済大学
常磐大学×1－4○群馬大学
常磐大学×1－10○茨城大学
常磐大学×0－3○宇都宮大学
常磐大学×2－5○白鴎大学
2014年度　後期リーグ戦
0勝　9敗

バドミントン部

顧問：砂金祐年
部員数：20人
秋季戦績

関東学生バドミントン秋季リーグ
（男子）…6部D
常磐大学○3－2×埼玉工業大学
常磐大学×2－3○東京理科大学経営学部
常磐大学×2－3○淑徳大学国際コミュニケーション学部
東京電機大学Ⅱ部　全対抗棄権
6部残留

関東学生バドミントン秋季リーグ
（女子）…6部B
常磐大学○3－2×国際武道大学
常磐大学○3－2×防衛大学
常磐大学○5－0×東京女子大学
女子入替戦
常磐大学○3－1×立正大学

お知らせ

2015年度常磐大学同窓会総会の開催を、**2015年6月27日（土）**に予定しています。
会員の皆様へは、開催が正式に決定した後に出欠回答票とともに郵送にて、ご案内いたしますので、ご出席くださいますようよろしくお願いします。

異動情報の更新にご協力ください

ご住所やご氏名の変更等により、本会からのご連絡をお届けできていないことが多くあります。
ご住所やご氏名に変更がありましたら、左記までご連絡ください。
その他、同窓生の皆さまの近況報告等もお待ちしております

＊同窓会のHPからも受け付けております。
http://www.tokiwa.ac.jp/~dosokai
メール：dosokai@tokiwa.ac.jp
Fax：029・231・6078
郵送：〒310・8585　水戸市見和1・430・1
常磐大学内　常磐大学同窓会事務局宛

掲載文募集

同窓会事務局では、会報「ときわの風」に掲載する会員の皆さまからの投稿を募集しています。日々の雑感・近況報告などをお寄せください。（編集の都合上800字程度でお願いします。）

なお、掲載された方には、薄謝進呈いたします。
［送付先］〒310－8585
常磐大学同窓会事務局または、
dosokai@tokiwa.ac.jp

【「ときわの風」へのご意見を募集しています。】

常磐大学同窓会事務局は、会員の皆様に大学の情報、同窓会活動の情報をお届けするため「ときわの風」を編集・発行しております。しかしながら、会報が会員の皆様のご期待に応えることができているのか、また会員の皆様が会報を通じてどのような情報を求めているのかを知りたいと考えています。
会報に対するご意見・ご要望など、どんなことでも結構です。常磐大学同窓会事務局までメールにてお寄せください。同窓会事務局として、寄せられたご意見・ご要望にお応えできるよう検討していきたいと思います。
［送付先］常磐大学同窓会事務局　dosokai@tokiwa.ac.jp

ゼミプロジェクトを振り返って

北根精美

昨年末に私が初めて担当したゼミナールの卒業生が、同窓会に招待してくれました。久しぶりに再会した卒業生たちは皆、家庭や職場で活躍されており、とても頼もしく、また嬉しく思いました。初代のゼミ生たちとは、企業から頂いた課題に取り組むプロジェクトを手探り、手作りで実施してきました。いわゆるプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）です。高級おつまみの販売促進提案、乳製品のコンセプト提案、Webコミュニケティ構築、新調味料のマーケット受容調査、携帯電話コミュニケーションによる情報伝播調査、食品ブランド認識と生活価値観調査。こうして並べてみると、当時の学生たちの様子が思い出されます。同窓会でも発表会資料の作成のため遅くまで作業したことや、企業本社での発表会の話に花が咲きました。

振り返ってみると、初代ゼミ生とのPBLを開始してから、様々なプロジェクトに取り組んできました。オーストラリア飲料メーカーのプロモーション提案、家具店の店舗づくりとプロモーション提案、飲食店の新しい業態提案、エンドユーザーの視点での地場食品業界の販売戦略、LEDろうそく・ランタンの新商品コンセプトの提案、センサータグの応用提案。ICタグに代表されるデジタル技術の応用プロジェクトでは、ひたちなかテクノセンターのご支援により、当時の常務取締役の森茂氏との共同で特許を取得するに至りました。発表資料を見直してみると、学生たちの斬新なアイディアが満載であり、ゼミ生たちの活気が感じられました。「グループ毎に最低100件のアイディアを出してみよう」との呼びかけに、授業やサークル活動、アルバイトをやりくりして、学生たちはよくついてきてくれたと思います。

現在、私が所属する経営学科では、村中均准教授とともに水戸ホーリーホックや水戸市森林公園の集客イベントを実施しています。PBLは地域密着型でなおかつ実践的な内容へと変化してきましたが、とにかく学生目線で考えるという、卒業生たちが築いてきた「常磐PBL」は、確実に後輩たちに引き継がれています。

▲北根先生（写真中央）とゼミナール学生（国際学部4期卒）

【執筆者紹介】
北根　精美　国際学部教授
常磐大学情報メディアセンター長
社会学修士。東洋大学大学院社会学研究科
社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学。
専門：社会調査、情報社会論、異文化コミュニケーション

＊編集後記＊

年々月日の移り変わりが早くなっていると感じる。歳を取ってきたということなのか、仕事や生活に変化を感じなくなったせいなのか…。この会報も気がつけば今号でVol.20になった。途中、発行することができず、合併号になったこともあったが、9年間発行を続けてきたことになる。会報作成は、会員の方への情報発信を目的としているが、果たしてその目的は達成できているのであろうか。会員の声を聴きたいという思いから、前号から会報へのご意見について記事を掲載することにした。是非会員の皆様からのご意見を頂戴したい。今後会報でどのような情報を発信していっていいものか、日常業務の間で考えるものの迷走を続ける今日この頃である。（久）